

⑤ 地域団体と連携した商品開発や情報発信【国稀酒造株式会社】

国稀酒造株式会社	國稀俱樂部
<p>「国稀酒造(株)」は、明治15年創業、暑寒別岳連峰からの豊かな残雪を源流とする伏流水を使用し、清酒「國稀」等を製造する酒造会社。</p> <p>○ 所在地：増毛郡増毛町稲葉町1丁目17            ○ TEL：0164-53-1050            ○ FAX：0164-53-2001</p>	<p>留萌振興局の職員や管内の日本酒愛好家により、地酒のPR活動を目的に平成22年1月に「國稀俱樂部」が発足。</p> <p>地域活性化を目的として交流会を定期的に開催しているほか、管内で冬季に開催されるイベントなどへ甘酒の提供等を行っている。</p>

地域団体との連携のポイント

「国稀酒造(株)」は、酒造会社と地域の日本酒愛好家等との関係構築・連携から発足した「國稀俱樂部」との取組や、地域の観光協会等とイベント連携にはじまり、地元の農家、漁協青年部等とも連携した商品開発など、連携が経済活動まで繋がった取組事例です。

国稀酒造の状況

「国稀酒造」は、増毛郡役所に醸造免許鑑札願いを届けた、明治15年が創業です。

初代本間泰蔵は、嘉永2年(1849年)新潟県佐渡に生まれ、明治6年小樽に渡り呉服店の番頭として働き、明治8年に増毛に移り住み呉服商を始めました。

明治15年には「丸一本間」を名乗り、呉服商の他に、荒物雑貨販売、呉服雑貨や漁獲物の輸送の他、海運業、ニシン漁にも手を広げ、醸造業も始めました。

創業から20年間は、旧本店(現「旧商家丸一本間家」、国指定の重要文化財)敷地内にある醸造蔵で酒を造りました。

その後、ニシン豊漁による好景気が続き、酒の需要が増え続けたことから、明治35年、現在地に地元産の軟石を使った酒蔵を建設。丸一本間合名会社酒造部として営業、平成13年に、現在の「国稀酒造株式会社」と社名を改めました。

「国稀酒造」の建物は、平成13年第1回北海道遺産に選定された「増毛の歴史的建物群」を構成する建物の一つで、旧JR増毛駅前から続く「ふるさと歴史通り」の中にあります。

建物の老朽化に伴い、平成12年から既存の古い建物と調和するよう、4年間かけて改修されました。

その結果、後世に残そうとしている姿勢が高く評価され、平成17年度「北海道赤レンガ建築賞」を受賞しました。

古き良き時代を思わせる増毛町の町並みの中、

石造りの蔵の中で、心と懐かしさを感じる増毛を代表する建物となっています。

取組の内容

「国稀酒造」は、増毛に根ざした酒蔵として、これまで同社の製品販売や情報発信を通じて、地域の観光協会や各種団体の取組とも連携しながら、地域のPRや地場産品の知名度向上に取り組んできました。

生産者との連携による商品開発については、増毛町は果物が豊富に生産されていますが、生産量に比べ知名度が高くないことから、地場産品を活用した商品開発により知名度向上に取り組んでいます。

現在は、地場産の果物を使用した炭酸水(りんご・洋なしの2種)を同社売店で販売しています。

地域団体との連携については、地元漁協青年部の企画である「漁師の力水」の商品化に対する協力を行っています。

同社から販売された商品売上の一部は、漁協青年部から町内のスポーツ少年団や幼稚園へのスポーツ用具寄贈の一部となるなど、地域に貢献しています。

また、同社に包装資材を納入している留萌管内のNPO法人から相談を受け、障がい者が製作する手工芸品の企画について、土産用の商品開発に向けた助言を行っており、製作された商品は、同社売店でも販売しています。

観光協会や地域の事業者との連携については、観光協会等とのイベントの共催のほか、同社が所有する施設「千石蔵」では、地元のコーヒーストップがカフェを開設しているほか、商工会主催のビアパーティや札幌交響楽団のコンサートをはじめ、ミニライブなどのイベント会場として年間10回ほど利用するなど、連携した取組を行っています。

また、地元産の「酒造好適米」の確保に向けた取組については、これまで同社の原料米は兵庫県産「山田錦」などが中心でしたが、道産の「酒造好適米」である「吟風」や「きたしずく」の活用にも力を入れてきており、数年前からは町内の米農家と連携し、「酒造好適米」の生産にも取り組んでいます。

町内で生産された「酒造好適米」は、同社の定番商品や期間限定商品の原料米として使用されています。

平成 22 年に、留萌振興局の職員や留萌管内の日本酒愛好家により、地酒のPR活動を目的に発足した「国稀倶楽部」との連携については、地域活性化を目的として交流会を定期的を開催しているほか、同倶楽部を通じて、管内で冬季に開催されるイベントへの甘酒の提供などの地域貢献活動に取り組んでいます。



#### 今後の展開

「国稀酒造」では、今後も「国稀倶楽部」をはじめとした地域団体と連携した地域貢献活動の取組を継続するほか、新たな情報発信の取組についても検討することとしています。